

2023年11月 | Vol.28

AJWCEF

NEWS LETTER ニュースレター

ご挨拶

オーストラリア日本野生動物保護教育財団
理事長 水野 哲男



オーストラリア日本野生動物保護教育財団会員及びご支援を頂いております皆様へ

皆様におかれましては、平素よりオーストラリア日本野生動物保護教育財団（AJWCEF）の活動にご理解とご支援を賜り誠に有難うございます。

本年11月1日より、前日本獣医生命科学大学学長の清水一政先生が弊団体の名誉顧問に就任されました。清水先生は獣医薬理学の分野で長年研究を続けられ、獣医学のみならず、人医学の基礎研究として大きな功績を残されました。また同時に、人と動物が共に生きる豊かな環境の創造と維持に貢献できる人材の育成のため、長きにわたり獣医学教育に邁進されました。そのお人柄はまさに“実るほど首を垂れる稲穂かな”の言葉どおり、大変な知識とご経験をお持ちであるにもかかわらず、我々のような若輩の言葉に真摯に耳を傾けられ、常に何かを学ぼうとされています。私もそのような先生から長年薫陶を受けることができましたのは非常な喜びであります。

さらに喜ばしいことに、本年の秋の叙勲において先生が今までの学問のご功績と大学学長としての教育の分野でのご貢献から瑞宝中綬章を受章されました。

その先生が弊団体の名誉顧問ご就任に当たり、以下のように決意を述べられておられます。「この地球の危機に対し、その原因の多くを作った我々人類が総力を挙げてそれらの問題に取り組んでいかなければなりません。私は長年培ってまいりました大学教育の経験を活かし、これらの問題に対し真摯に向き合い、学校及び社会教育を通じてオーストラリア日本野生動物保護教育財団の掲げる「人と自然のより良い共生」について広く社会の皆様と共に考え、行動して参りたいと思います。美しい、そして健全な地球を次の世代、さらにその次の世代へと継承できるよう、皆様のご理解とご支援を心からお願い申し上げます。」

AJWCEFはこれからも人と自然のより良い共生を目指し活動してまいります。どうか皆様の末永いご支援をお願い申し上げます。

● 2024年春期 トレーニングコース開催日のお知らせ (基礎・臨床コース) ●

第1回 野生動物保護 基礎 トレーニングコース	3月12日(水)-3月22日(金)
第2回 野生動物保護 臨床 (NEW) トレーニングコース	3月24日(日)-4月1日(月)

次の開催は2024年夏期(8/9月)、募集開始は5月から予定しています。

詳しくはHPまで <https://ajwcef.org/>

お問合せはこちらまで: training@ajwcef.org



応用トレーニングコース体験記

2023年8月18日-26日



私がこの実習に参加した理由は、オーストラリアの豊かな自然と高い野生動物保護への取り組みについて学び、さらに海外で括約する力を身につけたいと思ったからです。

実習の前半では、自然に囲まれたノースストラドブローック島で様々な野生動物と海洋ゴミ問題について勉強しました。ノースストラドブローック島では、宿舎の近くでも野生のコアラやカンガルーを見ることができ、野生動物を身近に感じることができました。

島からクジラやイルカを見ることもでき、楽しく観察することができました。野鳥なども日本では見かけないものばかりで、写真を撮って詳細を調べ、さらに野生動物に関心をもつことができました。

実習の後半では、二日間にわたってカランビン野生動物保護サンクチュアリ・野生動物病院で実習を行いました。ここでの実習では、園内を見学するほか油で汚染された鳥の洗浄や鳥への投薬の方法など臨症的な実習も含まれていました。

また、コアラの繁殖について学んだりコアラの解剖をしたりと、ここでしか知ることができない知識を得ることができました。実習の最終日には野生動物のケアラーさんの施設を見学しました。ケアラーさんはカンガルーとコアラなどを睡眠時間を削りながら一人で管理していたそうです。これほど多くの動物を一人で管理するには多くの時間と労力がかかるため、ボランティアでこのような活動を行っていることに驚きました。

今回の実習で印象に残ったことは、オーストラリアでは市民の野生動物保護に関する意識が高く、多くの寄付が行われていることです。カランビンの野生動物病院は運営費の多くを寄付でまかなっており、ケアラーさんもボランティアとして動物の保護のために活動しています。こうした寄付を受けるためには人々に野生動物保護に関心を持ってもらう必要があります。カランビンの野生動物病院は人々に活動内容を知ってもらうためにガラス張りになっており、治療中の動物を見ることができました。こうして集まった寄付により、野生動物病院は無料診療を実施しています。寄付の力は思っていた以上に大きく、多くのことをオーストラリアから学ぶ必要があると思いました。今回の実習では外国ならではの様々な体験をすることかでき、野生動物保護への理解を深めることができました。この思い出を胸に、世界で活躍していきたいです。



(参加者 H.A.さん)



私は今までオーストラリアに一度も来たことがなく、海外旅行の経験もほとんどなかったので、日本との文化の違い、動物と人との関わり合いの違いにとっても驚きました。日本で普段生活していると、カラスやハト、スズメなどの鳥か、犬や猫にしか出会わないので、それ以外の鳥を見ても、“鳥”としてひとつにまとめてしまって、興味もあまり持たないまま生活していました。オーストラリアでは、日本で暮らしていると想像もできないくらいたくさんの種類の大きさも大小異なる鳥がたくさんいて、自然とその鳥の名前や鳴き声に興味を持ち、自ら鳥を探して鳴き声を聞くようになりました。

水野先生が、日本とオーストラリアの野生動物の関わり方は180度異なっているというお話をされていましたが、オーストラリアの街並みやカランビン野生動物公園に行くことでより、日本の野生動物に対する関わり方に危機感を覚えました。上に書いたように野生の鳥に私が興味を持つようになったのは、日本のように人の住むところと動物のすむ

ところをわけて野生動物を守るというやり方ではなく、野生動物と人が同じ場所で共に暮らすという仕組みができているからなのだと感じました。わけへだてられていることで私の野生動物に対する知識はあまりなく、自然に対する興味も失なわれているのだと納得してしまいました。島ではイルカのサーフィンやクジラの潮吹き、渡り鳥や海の浅瀬に住む生き物など島特有の動物を見ることができてとても楽しく、勉強になりました。動物園でもまともに起きているコアラを見たことがなかったので、木にすわってユーカリの葉をもぐもぐ食べているコアラを見て感動しました。浅瀬を実際に歩いていて、“シーグラス”がかなり貴重な植物で生態系を維持する上で守っていかねばいけないものなのだと感じました。

また、野生動物病院は想像していた動物病院とは大きく異なるものでした。

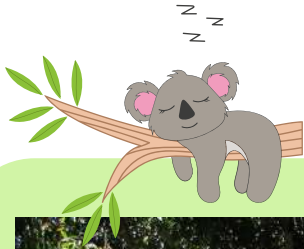
哺乳類のコアラやカンガルーのような動物が運ばれてくるイメージが強かったのですが、鳥や虫類が思っていたよりも多く驚きました。獣医師の方は、哺乳類の解剖的、生理学的な知識だけではなく、日本では普段とりあつかわないような鳥類、虫類の知識も身につけている必要があるのかと思うと知識量の差がかなりあるのだろーと考えるてしまいました。

私も獣医学生として犬や猫だけではなく、自分の興味のある勉強もしていく必要があると感じました。コアラの解剖は一生に一度のとても貴重な経験で犬や猫との臓器の違いには感動しました。

とても貴重な経験をたくさんさせていただき、ありがとうございました。

(参加者 山田 千夏さん 日本獣医生命科学大学 獣医学部)





基礎トレーニングコース体験記

2023年8月18日-26日



いつか、固有種が多く、動物に対する活動が活発なオーストラリアで動物に対する考え方や取り組みについて知りたい、と思っていたところにこのプログラムに出会い、参加することを決めました。

前半3日間はデイビッドフレイ野生動物公園で、実際に動物たちのお世話をしながら飼育員さんのお話を聞いたり、ショーを見たりしました。飼育スペースの掃除から給餌までさせてもらえたのですが、なかには一度絶滅したと言われていた希少なワラビーもいて、お世話できたことも触らせてもらえたこともとても貴重な体験でした。また、活動は小グループに分かれて行われ、グループごとに飼育員さんがついてく

れていたもので、質問もしやすく、話も聞きやすかったです。英語を聞き取れるか不安でしたが、飼育員さんも分かりやすく説明してくれましたし、小グループ制だったこともあって、乗り切ることができました。

後半3日間はカランビン野生動物公園とそこに併設されている動物病院に行きました。ここは動物園のような施設だったのですが、展示されている動物の生態についてはもちろん、展示の工夫やお客さんからは見えない裏側、野生動物保護に関する取り組みについても教えてもらうことができ勉強になりました。また動物病院では、搬送されてから回復するまでの流れを教えてもらえたり、実際に検査や治療の様子も見学させてもらうことができ、日本ではなかなか見ることのできない光景だったのでしっかりと目に焼き付けてきました。特に、コアラの解剖に立ち会わせてもらえたこと、ハリモグラの採血を見せてくれたこと、さらに、運よく生後間もないハリモグラの赤ちゃんを見ることができたことは印象に残っています。

ここでは、展示の仕方や動物病院の様子などから、日本との違いがとても感じられました。例えば日本では、治療の様子や病院内の様子などを一般の方が見ることはできないと思うのですが、ここでは病院がガラス張りになっていたのも、一般の方が普通に検査や手術の様子を見学できる環境にあり、こういう環境があるから多くの人が動物に興味をもち保護に積極的に取り組み協力してくれるのではないかと思います。

プログラムに参加するまでは、初めて会う人と海外で共同生活をするということに不安があったのですが、すぐに仲良くなることができ、特に同部屋の人々とはフリーの日と一緒にでかけたり、夜遅くまで話をしてゲームをしたりするほどとても仲良くなることができました。自分の英語力も不安でしたが、今できる範囲で頑張ってみよう自分から積極的に話したり質問したりして、充実した研修にできるように頑張りました。プログラムが終わるまでにはオーストラリアで出会った人とも友達になることができ、帰国後の今でも英語で連絡を取り合っているのも、また会えたらいいなあと思っています。

このプログラムを通して、オーストラリアの動物のことや動物に対する姿勢、活動について実際に体験をしながら学ぶことができました。さらに動物が好きになりましたし、自分はこの道に進んでよかったなと改めて思うことができました。友達もたくさんできて、楽しいプログラムでした。応用コースにも参加できるようにこれからも頑張ります。貴重な体験ありがとうございました。

参加者 I・Rさん 日本獣医生命科学大学・獣医学科・2年

今回のプログラムを振り返って、まず最初に「なんて濃い11日間だったんだろう」と感じました。帰国してから1ヶ月程だった今でも、一つ一つの景色が本当に昨日過ごしたばかりのように思い出されます。

最初に訪れたデイビッドフレイ野生動物公園では、まず飼育環境のスケールから驚き、日本の"見せる"動物園とは異なる、生き物の"暮らし"を考えた展示の仕方にとっても共感しました。鳥が自分でケージから出てきて、自由に広い空を飛び、また自分で帰っていくバードショーも初めて見ました。

カランビン野生生物保護区、病院では、大変お忙しい中、すぐ横で緊急外来の動物治療を見せて頂けたり、過去の治療の様子、またそこから私たちはどうすべきかなど大変多くのことを学ぶことが出来ました。初めて自分の目で見た野生のコアラが安楽死する結果になってしまったりと、衝撃的なこともありましたが、実際に自分の目で見なければ分からなかった、考えなかったこともとても多かったです。個人的に興味のある羽、言語学について等も全く異なる角度からのアプローチ、知識を学べたことはとても大きな刺激になりました。自分のつたない英語でも質問するととても丁寧に教えてくださったことも嬉しかったです。

また、実習以外の体験も素敵な思い出です。実習後に友達と何度も行ったビーチバレーや、バーベキュー、休日にはカヌーや、山道を散歩したりなどここまで皆と仲良くなれるとは思っていませんでした。また近い夢を持つ友人との会話は自分を鼓舞させることにも繋がりました。

最後に、自分の興味に合わせて様々なことを教えて下さったり、引率して下さったAJWCEFスタッフの皆様、本当にありがとうございました。短い期間でしたが、この11日間で私の将来の夢が変わりました。将来オーストラリアで働くという夢を叶えられるように頑張ります！



(参加者 Saraさん)



AJWCEF活動報告

(2023年6月から11月末まで)

ONLINE SEMINAR オンラインセミナー

- 10月25日 横浜市某公立高等学校 水野哲男「コアラとその危機」
- 10月25日 岡山理科大学 モリスゆう「野生動物との共存 -フレーザー島のディンゴ-」
- 11月15日 横浜市某公立高等学校 水野哲男「人獣共通ウイルス感染症とオオコウモリ」
- 11月17日 岡山理科大学 水野哲男「単孔類の特徴と繁殖-カモノハシとハリモグラ」

AJWCEF TRAINING COURSE トレーニングコース

- 8月18日-26日 応用
- 8月29日-9月8日 基礎

STUDY TOUR

オーストラリアスタディーツアー

- 7月22日-28日 大阪府立生野高等学校
- 7月31日/8月7日 朋優学院高等学校
- 8月6日-14日 北里大学
- 9月7日 倉敷芸術科学大学
- 9月9日-18日 NVLU (日本獣医生命科学大学)
- 9月10日-20日 岐阜医療科学大学

- 4月-7月 北里大学 オンライン専門英語講座 (渡航前研修) 全10回
- 6月-9月 TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 全15回
- 11月- TCA 東京 ECO 動物海洋専門学校 全15回

ONLINE PROGRAM

定期オンライン講座

DONATION 寄付

2023年6月~11月期

- Wildlife Rescue, Rehabilitation & Education Association
(野生動物救護リハビリ教育協会) \$1350
- RSPCA Australia (王立動物虐待防止協会) \$550
- Bats Queensland (バツ クィーンズランド) \$200
- University of Queensland (クィーンズランド大学) \$300

AJWCEF の収益金の一部はオーストラリアの野生動物保護団体への寄付金とさせて頂いております。

英文記事翻訳ボランティア募集中

AJWCEFでは啓発活動の一つとして、オーストラリアにおける野生動物保護活動や環境問題に関する情報を日本の皆様にお届けするために、当地にて発信されているニュースを日本語へと翻訳をしてホームページのブログへと記載しています。

具体的な活動内容は、AJWCEFスタッフが日本では滅多に報道されることがないようなレアな野生動物保護や環境保護に関する話題を見つけ、その英文記事をボランティアの方に日本語に翻訳をお願いします。その後、AJWCEFのスタッフより翻訳文のチェックをした後にホームページへと記載いたします。

すべてメールでのやり取りとなりますのでボランティア活動に興味があるが多忙で時間の取りにくい方、英語のスキルを磨きたい方などに最適なボランティアです。

ご興味のある方はinfo@ajwcef.orgまでお問い合わせください。

WANTED
Work Together
with AJWCEF

お知らせ

New!

2024年春期 臨床トレーニングコースから
新しいプログラムが加わります !!!AJWCEF
トレーニング
コースのみ
で学べる

①模擬クリニカルワークセッション

今までのケーススタディーのような現場の獣医師の診療を観察するだけでなく、コース参加者で模擬医療チームを編成し、野生動物専門獣医師の指導の下、来院した野生動物や亡くなった動物を活用してチーム内で検討しながら模擬診察、検査、診断、治療の一連の作業を実際に行っていただくセッションです。必要に応じ、レントゲン、超音波、内視鏡などを駆使し実際に診断を行います。

②比較解剖セッション

コアラだけではなく、鳥類・爬虫類等の異なる動物種使い、解剖・生理学の視点からそれぞれの種の比較を行う死後解剖セッションです。

野生動物雑学ラウンジ

File.1 Common Brushtail Possum

環境適応しやすく街中や民家の屋根裏、ガレージの中等にも住み着いているのでその生息数は年々増加中。夜、散歩に出たら電線の上を歩いているポッサム達に遭遇することが多々あります。人間社会と共存しているポッサム達ですが、時にはペスト的な存在になることも。ただ、固有種の場合は国の法律で保護されているので勝手に淘汰したり、生息場所を奪ったりすることは出来ません。では、どうやって人間のテリトリーから上手く離して共生できるようにするのか。管轄する地域によって変わりますが、ブリスベン市内での野生動物法(ポッサム)は

「捕まえた場所から25m以上、人為的に移動させてはいけない」
= 「25mは移動させて良い」

ということで、ライセンスを持った専門家に依頼してまずは生息場所となる巣(例えば民家の屋根裏)から追い出し(もしくは出かけた時を見計らって)、出入り口を徹底的に防いで、自主的に移住してもらうという方法をとります。追い出されたポッサム達には申し訳ない気持ちにはなりますが、、環境適応が出来るポッサム達はすぐに次のアジトを探しにいくようです。

(AJWCEFインスタグラム掲載 Nov2022)

AJWCEF

ニュースレター発行元
オーストラリア日本野生動物保護教育財団本部事務局

発行責任者 水野 哲男
編集担当 クリス 悠子
ホームページ www.ajwcef.org

住所 PO Box 1362 KENMORE, QUEENSLAND, 4069, AUSTRALIA
電話 + 61 7 3195 4749

会員(個人・法人)募集
及び支援寄附のお願い
皆さまのご支援が
小さな命を助けます。
詳細は、AJWCEFのサイト
www.ajwcef.org
『入会・寄付』のページに
お進みください。